山家雄紀夫「景気とは何だろうか」岩波書店 2005年

第2章 景気を何でとらえるか

○問題提起

「DI水準を問題にするなら、2004年12月調査での非製造業・中小企業の業況判断は依然として大幅なマイナスであり、この分野の景気が悪いことを裏付けている。格差について言えば、製造業・大企業の『良い』超幅と、非製造業・中小企業の『悪い』超幅との、2004年9月調査における差は、『短観』調査史上最大となっている。／ なお、非製造業・中小企業のうちで業況判断DIがその平均を下回っている業種として建設業、小売業、飲食店・宿泊がある。もっとも業況の厳しい業種である」(P.71) とあるが、なぜ上記の業種の業況が厳しいのであろうか。

○選んだ理由

「建設業、小売業、飲食店・宿泊」とあるように、これらの業種はジャンルが大きく異なっているが、業況が厳しい業種という点では共通点があるのかどうか疑問に思ったから。

≪討論≫

・Bグループ

3業種の共通点は、大企業に顧客がとられやすく、また景気にも左右されやすいという点。

・Cグループ

上記の3業種は、大企業のシェアが大きく、また大企業の業況の落ち込みの影響を受けやすいから。

・Dグループ

3業種の共通点は、大企業の業況が悪化したため、それに応じて中小企業も業況が悪化したこと。また、消費活動が共通して停滞していたからDI水準が低いと考える。

・Aグループ

少子高齢化によって企業の人手不足や人材育成の困難があったため、各業種が発達しなかったのだと思う。